

りそな外為レポート

りそな WEEKLY COLUMN

りそな外為レポート

♪次のソウダン&カワセヘッジは
りそなグループだよ♪(P2)

りそな銀行 市場トレーディング室
カスタマーディーラー 武富龍太

今週のドル円予想レンジ **105.10 ~ 107.10**

りそなWEEKLY COLUMN

世界を変えた箱 ~ コンテナ物語 ~ (P3)

関西みらい銀行 資金証券部 資金為替グループ
チーフマネージャー 今村 敬

- 20世紀最大の発明は・・・コンテナ!?
- コンテナの誕生と歴史
- コンテナの歴史から「みらい」を考える

2020/8/3

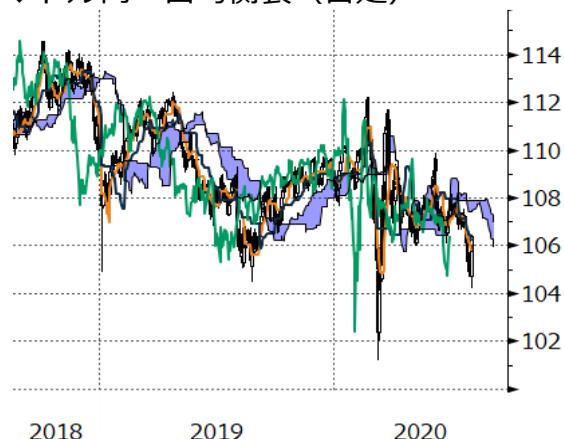
りそな外為レポート

♪ 次のソウダン&カワセヘッジはりそなグループだよ♪

今週のドル円予想レンジ **105.10 ~ 107.10**

(りそな銀行市場トレーディング室予想 発行当日の10時時点)

◆ドル円一目均衡表（日足）



◆為替相場のすすめ

8月と言えば？個人的には「TUBE」や「サザン」などを思い出すが、市場参加者にとっての8月といえば「円高」を思い出す。

2000年以降の8月を20回調べてみると、「円高14回・円安6回」「月間平均は1円22銭円高になる」であり、これは12ヶ月中で最も円高の確率が高く、最も月間平均が円高である。

足許では、欧州復興基金設立を背景にユーロ高ドル安の流れが加速。加えて、金融緩和による米ドル余剰、景況感上振れの一巡や米中関係悪化というドル安円高材料が多くあり、今年も「円高の8月」再来の可能性を思い出させる。

巷では、香水の匂いで過去を思い出すというブルースト効果を歌詞にした歌が流行しているが、「8月＝円高」「為替ヘッジ＝りそなグループ」を思い出して欲しい。

♪「別にりそなを求めてないけど コラムを見ると思い出す」♪

♪「次のソウダン&カワセヘッジは りそなグループだよ」♪
(シンガーソングライター 武富龍太)

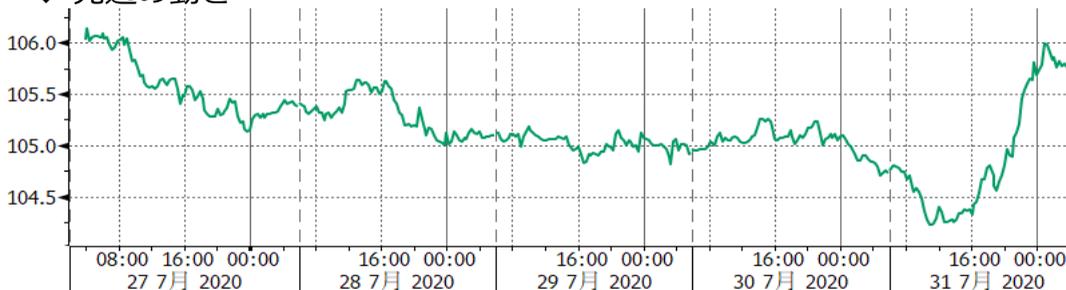
◆今週の日程

3日(月) 米 7月ISM製造業景況指数	5日(水) 米 7月ISM非製造業景況指数
4日(火) 中 7月財新製造業PMI	5日(水) 米 7月ADP雇用統計
4日(火) 豪 RBA金融政策会合	6日(木) 英 BOE金融政策委員会
4日(火) 米 6月製造業受注	7日(金) 中 7月貿易統計
5日(水) 米 6月貿易収支	7日(金) 米 7月雇用統計

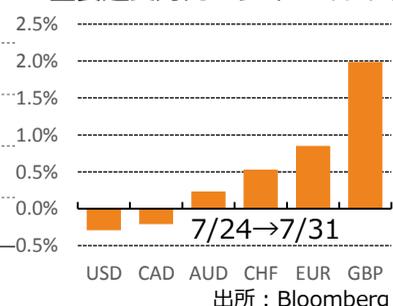
◆今週の予想 (ドル高 強い ↑ 普通 ↑ ドル安 強い ↓ 普通 ↓) NY引け値 7月31日(金) 105.83円 VS 8月7日(金)

東京						大阪			埼玉						
井口	中根	湊	小新	鳥井	田中	浦本	中里	伊藤	鈴木	武富	野瀬	小林	津田	石井	佐藤
↓	↓	↓	↓	↓	↓	↑	↑	↑	↓	↓	↓	↓	↑	↓	↑

◆先週の動き



主要通貨対円パフォーマンス



◎注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

2020/8/3

りそな WEEKLY COLUMN

世界を変えた箱 ～ コンテナ物語 ～

- 20世紀最大の発明は・・・コンテナ！？
- コンテナの誕生と歴史
- コンテナの歴史から「みらい」を考える

関西みらい銀行 資金証券部 資金為替グループ
チーフマネージャー 今村 敬

➤ 20世紀で最大の発明とは？

20世紀で最大の発明と聞くと、あなたは何を思い浮かべますか。パソコン、テレビ、インターネット・・・etc.色々挙げられるでしょうが、私の中でも特に推したいのが『コンテナ』です。街中でも見かける、この無機質で固そうな箱（図①）。地味ながら港を一変させた凄い『発明』なのです。

図① 一般的なコンテナ



➤ コンテナが誕生するまで



コンテナが誕生するまでの港湾には、沢山の人が働いていました。荷物の大きさはバラバラで、それらを筋骨隆々の屈強な港湾労働者が人海戦術で運ぶ。船が入港してから出港するまでの複雑な作業を人力で行っていた為、とても非効率でした。天気が悪いと荷物の積み下ろしも命がけ。荷物が破損したり(港湾労働者が雑に扱う為)、荷物の中身が抜き取られるといったトラブルも多発していたようです。

➤ コンテナの誕生

1956年4月26日、ニュージャージー州のニューアーク港を1隻の船がアルミ製の「箱」を積み、ヒューストンに向けて出港しました。そこに58台のトレーラートラックが待ち受けて運送する。これがコンテナの始まりでした（『コンテナ物語—世界を変えたのは「箱」の発明だった』／マルク・レビンソン著 日経BP社）。そのコンテナを発明したのがマルコム・マクリーン。彼は貨物を運送する際、箱だけを積み下ろしするシステムを発明しました。すべて同じサイズのコンテナで荷物を運ぶことによって、船、トラック、鉄道の積み下ろしを容易にしました。コンテナリゼーションの始まりです。

その後、コンテナの規格が世界で統一され、それに伴い港湾設備の整備が進展しました。世界中から同じ大きさの貨物が来るようになったため、それに対応したガントリークレーン（図②）を用意することで、積み下ろし作業の自動化が実現しました。大きさがバラバラだとそうはいきません。さらに、トラックや鉄道もその大きさを合わせることで、積み替えにかかる時間も大幅に短縮できるようになりました。船を使った物品輸送の生産性が

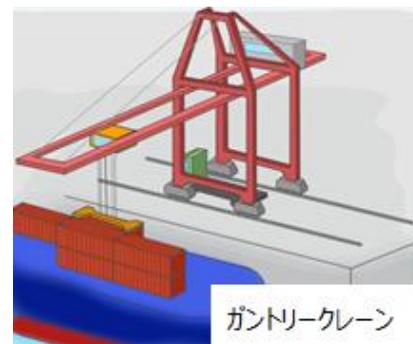
りそな WEEKLY COLUMN

➤ コンテナ後の世界

飛躍的に向上したのです。

コンテナの登場により、港湾の景色は一変しました。港湾に並んだガントリークレーンがコンテナ船から次々とコンテナヤードに積み下ろしをしていきます。船荷証券と同じ番号のコンテナシールで貨物の判別が可能となり、中身をいちいち開ける必要もなくなりました（それにより盗難リスクも大幅に減少）。通関処理後のトラックや鉄道への積み替えはフォークリフトで行います。機械化・自動化の進捗により、輸送スピードも格段に向上し、国際便の輸送費用が急激に安くなりました。あまりの変化の早さに、コンテナを発明したマルコム・マクリーンもついていけず、破産してしまっただけです。

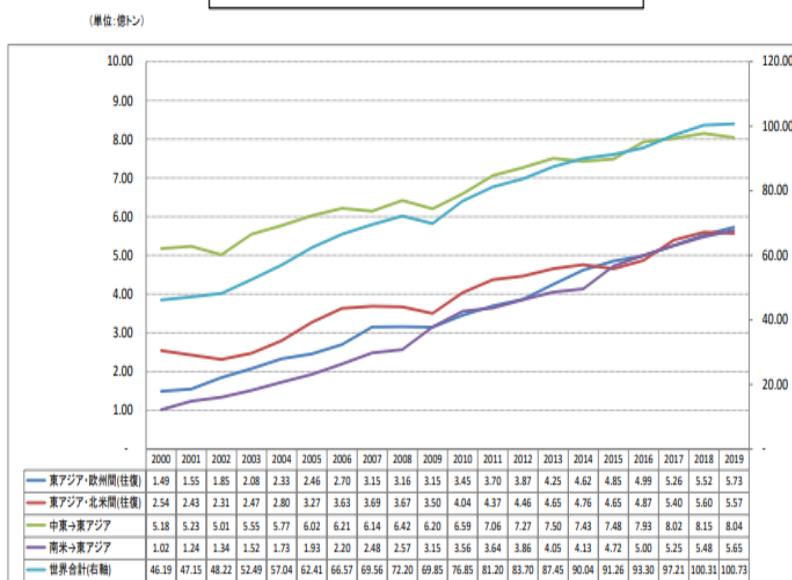
図②



ガントリークレーン

海上輸送が安くなったということは、人件費の安い国で物を作り、輸入した方が仕入コストが安くなります。先進国がどんどんと商品の製造拠点を新興国に移していきようになりました。地産地消がメインだった時代から、生産コストが安い国で生産して輸入するというグローバル化の時代へ移っていきます。そして、ますます貿易量が増えていったのです。その傾向は今でも続いています。

世界の海上荷動き量の推移(2000-2019年、IHSデータ)



(出典；(公財)日本海事センター資料より)



◎注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

2020/8/3

りそな WEEKLY COLUMN

➤ いろいろな種類のコンテナ

現在のコンテナはドライコンテナであれば20フィートサイズか40フィートサイズが一般的です。他にも液体を入れるためのタンクコンテナや、冷蔵機能のついたコンテナまでたくさんの種類があります。どのコンテナもワールドワイドに大きさは統一されています。ザ・効率化ですね。ちなみに新品のドライコンテナ20フィートは大手通販サイトなどでも販売しており、1つ50万円程度で買うことができます。

➤ 住居としてのコンテナ

最近ではコンテナ倉庫やコンテナハウス等、コンテナを建物として活用する事例も増えてきています。コンテナ自体は頑丈で水を通さないのので、断熱材を貼れば家として住むことも可能なのです。投資物件としての案件が出ることも増えてきているようです。欧米ではオシャレなコンテナハウスが増えてきているので、日本でもこれから増えてくるかもしれませんね。ただしコンテナは動かせる＝「不動産」ではないため、住宅ローンは組めませんので、その点ご注意ください。

➤ コンテナの歴史から「みらい」を考える

機械化・自動化による生産性の向上。これは現在の私たちにも当てはまる重要なテーマです。そして、コンテナの歴史の中にも、そのヒントはあるのではないのでしょうか。特に昨今は新型コロナウイルスの感染拡大により、テレワークやスプリットオペレーション等、強制的に時計の針を進められてしまった感もあります。このような環境だからこそ、これを好機と捉え、あえて新しいことに挑戦していくことも重要なはずです。私は市場部門に異動してきて4ヶ月の「初期のコンテナ」ですが、市場の「世界規格」を身につけるべく、日々、奮闘しております。果敢に挑戦したうえでの多少の失敗は・・・大目に見てやっていただけないでしょうか(切実)。

参考文献；

『コンテナ物語—世界を変えたのは「箱」の発明だった』(マルク・レビンソン著 日経BP社)

日本経済新聞

JETRO記事

(公財)日本海事センター ホームページ

※画像はMicrosoft Wordのクリップアート登録の画像を使用。

※グラフについては出典に記載の箇所から引用。

